



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4612 号 2018.9.14 発行

### 娯楽がないと人間でいられない



コミュニケーションや笑いが必要で、その手助けとなったのがアナログゲーム。本当にいいものだと感じた」

北海道で震度7の揺れを観測した地震のあとに投稿され、話題になったツイートです。

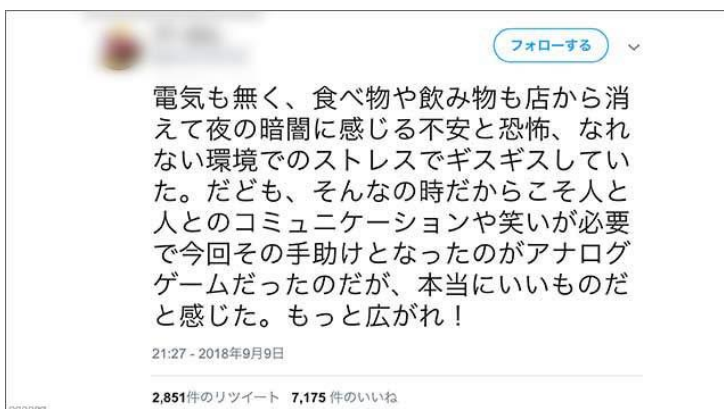
「アナログゲーム」とは、電源が必要ないカードやボードゲームのこと。

ツイートをした北海道に住む20代の男性に話を聞きました。

地震の後、道内は停電。男性は、携帯電話の充電のため避難所を訪れた時に、たまたま手元にあった「モノポリー」などのゲームを取り出したところ、人だかりができるほどの人気に。

男性はいったん自宅に戻り、趣味で保管してあったほかのゲームおよそ20セットを持ってきて、ルール説明をしながら配ってまわりました。

### ゲームが変えた避難所の雰囲気



「電気も無く、食べ物や飲み物も店から消えて夜の暗闇に感じる不安と恐怖、なれない環境でのストレスでギスギスしていた。そんな時だからこそ人と人とのコミュニケーションや笑いが必要で、その手助けとなったのがアナログゲーム。本当にいいものだと感じた」

北海道で震度7の揺れを観測した地震のあとに投稿され、話題になったツイートです。

「アナログゲーム」とは、電源が必要ないカードやボードゲームのこと。

ツイートをした北海道に住む20代の男性に話を聞きました。

地震の後、道内は停電。男性は、携帯電話の充電のため避難所を訪れた時に、たまたま手元にあった「モノポリー」などのゲームを取り出したところ、人だかりができるほどの人気に。

男性はいったん自宅に戻り、趣味で保管してあったほかのゲームおよそ 20 セットを持ってきて、ルール説明をしながら配ってまわりました。

まもなくそこかしこで笑い声が聞こえるようになるなど次第に避難所の雰囲気が変わってきたといいます。

男性は「テレビゲームも好きですが、停電してしまえばただの重いもの。一方、アナログゲームは電源も要らないし、人とコミュニケーションを取る1つのツールになりえます。多くの人と一緒にわいわい楽しんで笑っている姿を見て、アナログゲームの魅力を改めて感じました」と話していました。



### 防災袋にトランプ!?

共感するツイートも多数投稿されています。

「うちも暗闇で懐中電灯で照らしながら人生ゲームやって家族で爆笑してました」

「防災袋にトランプ入れてる。娯楽が無いと人間でいられないと思う」

『トランプやオセロなんて災害時に非常識』って思ってたけど、人間だもの、息抜きも必要」

### 避難所でゲームを用意するところも

避難所がゲームやおもちゃを用意した所もあります。

むかわ町にある穂別町民センターでは、近くの観光施設の担当者などが、ボードゲームやぬいぐるみ、絵本などを持ち寄り、自由に遊べるようにしました。



「オセロ」や「UNO」といった定番のゲームはもちろん、「ニムト」「ハゲタカのえじき」といったカードゲームなども置かれ、避難した人たちにも評判だと言います。

ゲームを用意した、むかわ町穂別地球体験館の野田亜衣さんは、「子どもたちも携帯用ゲームを持ってきたようですが、電池が切れてしまうので、カードゲームなどをやろうと言って楽しんでくれていました。大人も子どもも一緒になって遊べるのがよかったのではないのでしょうか」と話していました。

### 子どもの仕事は遊ぶこと

「遊びが仕事」の子どもにその時間や場所を確保するのは大人の役割。

それをすみやかに実行したのが安平町にある「はやきた子ども園」です。

震度6強の揺れを観測した安平町にある「はやきた子ども園」では、家具が倒れただけではなく保育士も被災したため子どもを預かること



が難しくなりました。

そこで、園長の井内聖さんがフェイスブックを通じて手伝ってもらえる保育士がいないか呼びかけたところ、札幌など道内のほか本州からもボランティアの保育士が集まり地震から2日後には、園を再開することができました。今は40人から50人の保育士が60人ぐらいの子どもたちを見えています。

未来ある子どもに不安を残さない

職員の武部一憲さんによると、地震の影響で上空にはヘリコプターが飛び、復旧のため自衛隊員や工事車両が行き来するというふだんとは違う光景を目の当たりにしているほか、たび重なる余震で子どもたちは「何が起きているんだろう」と大きな不安に襲われます。子どもが感じる不安やストレスは、大人が思っているより深刻で、家の中でずっと過ごしていると緊張感が続いてしまいます。

それを解消するためには、広い場所で鬼ごっこやサッカーをしたり友達とおしゃべりしたりと、とにかく遊ぶ場所を作ることが大切だと言います。

この園ではふだんは行っていない日中の小学生や中学生の受け入れも行いました。

帰る時に子どもたちは、「きょうは楽しかったね。また明日来ようね」と笑顔で帰っていくということです。

武部さんは、「東日本大震災では、時間がたつてから子どもたちが精神的に参ってしまうこともあった。それを教訓に未来のある子どもたちに少しでも不安を残さないことが大事だ。みんなで協力してやっていきたい」と話していました。



### 東日本大震災の記憶

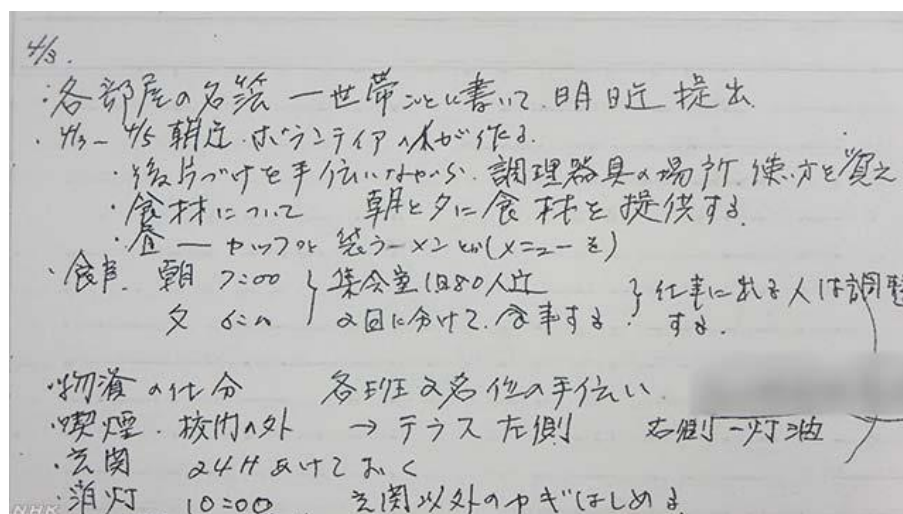
多くの犠牲者が出た7年前の東日本大震災でも娯楽の大切さは多くの人が認識しました。

津波で住宅のほとんどが流された宮城県南三陸町の中瀬町地区。

この地区では廃校の小学校に4月上旬からおよそ4か月にわたって120人の住民が避難しました。

当時の区長、佐藤徳郎さんは、当時の出来事が記録されたノートを今も大切に保管しています。

記録は、4月3日から始まり、朝晩の食事や消灯時間などの事務的なことが細かく記されています。その翌日には映画の上映会や演奏会の開催などさまざまなイベントの予定が入ったことが書かれています。



家族や友人を失い生活の土台を奪われた人たちにとっても娯楽は必要だったのです。

一方で4月7日の夜遅くには、余震と見られる震度6弱の揺れを観測。その影響で映画の上映会が中止になったことも記されています。

震災から1か月が過ぎ避難生活にも少しずつ慣れてくると生演奏や落語、マジックなどイベントの予定が入るようになりました。

佐藤徳郎さんは「自宅が流され、狭い避難所で長期間、避難生活を送る中でストレスがたまってしまう。参加する住民が1人でもいいという思いで、イベントを積極的に行ってきた。その中で、子どもたちにも大人にも笑顔が戻っていた」と話しています

### 楽しんでいいの？

一方で当時、皆が感じていたことがあります。

災害のさなかに楽しんでいいのだろうかという空気です。

4月も半ばすぎ、避難所の脇にあった桜が満開になった頃、私（後藤）は南三陸町で取材をしていました。

住民の中には桜を見て楽しんでいいのか、戸惑いを口にする人がいたことから、私は住民の人を誘い、満開の桜を見に行きました。

わずか数分間のお花見でした。

住民の1人は、「避難所での生活で疲れがたまっていたけど、満開のサクラを見て少し笑顔になれました。こうして楽しむ時間も大切ですね」と話していたのが非常に印象的でした。

### 災害時の常識に

この夏も各地で災害が相次いだ日本。だからこそ人間らしく生きていく知恵を身につけなければいけません。

「娯楽がないと人間でいられない」

災害時の常識になってほしい言葉です。

### 物流停滞、苦悩の福祉現場 胆振東部地震 「支援なければ生活できない」



北海道新聞 2018年9月14日  
食材不足の中で、メニューを工夫しながら夕食の準備を進める「ケアホーム 彩り」のスタッフ＝13日、札幌市厚別区

胆振東部地震後に物流が停滞している影響で、福祉の現場では物資の確保に苦慮している。高齢者支援施設は利用者に提供する食材を十分に集められず、生活用品をそろえるのにも一苦勞。小規模施設は仕入れ先が限られるため、物流網の本格的な復旧を願っている。

「利用者に旬の味を楽しんでもらいたいが、食材がそろわず苦勞している」。札幌市豊平区の小規模多機能型居宅介護事業所「ほのあ」の担当者は、頭を抱える。デイサービスなどの利用者1日10人ほどに、サンマなどの季節の食材を使ったメニューを提供していたが、地震後は長期保存できる乾麺やお好み焼きなどが中心となった。

食材はスタッフがスーパーで買いそろえるため、品薄状態がいつまで続くのか気にかけている。担当者は「店頭で生鮮品がそろい始めたが、魚などは割高。手に入る食材で工夫するしかない」と話す。

### 真備の福祉施設19カ所業務停止 豪雨で被災、2カ所は休廃止

山陽新聞 2018年9月13日

倉敷市は13日、西日本豪雨で被災した真備町地区の福祉関連施設19カ所が業務を停止しており、うち2カ所は事業の廃止や休止を市に届け出たと明らかにした。

市によると、19カ所は認知症高齢者グループホームをはじめとする介護施設や児童館、保育所など。豪雨による浸水や断水を機に業務停止を余儀なくされているが、13カ所は再開を計画している。

残る6カ所のうち、真備町有井の短期入所生活介護施設は、9月末での事業廃止届を提出。同町箭田の居宅介護支援・通所介護・訪問介護事業所は、10月から事業を休止すると届け出た。前者は過去半年で44人が、後者は現在100人が利用している。

2施設とも、利用者が希望するサービスを継続して受けられるよう、他施設に引き継いでいるという。この日の市議会保健福祉委員会で市側が説明した。

市保健福祉推進課は「それぞれの事業者がサービスを継続、再開できるように、支援施策の情報提供などのサポートを続けたい」としている。（石井聡）

## 自殺予防へ対策トップセミナー 「支援地域ネット強化を」 東京新聞 2018年9月14日 出席した県内自治体の関係者ら



自殺予防週間（十～十六日）にあたり、県は十三日、厚生労働省などと共催で、市町長らを対象にした「県自殺対策トップセミナー」を県庁で開いた。県内の自治体関係者ら約八十人が出席し、自殺対策への理解を深めた。（北浜修）

NPO法人自殺対策支援センターライフリンク（東京）の清水康之代表が講演した。清水さんは元NHKディレクター。在職中は番組「クローズアップ現代」を担当し、自殺問題を取材。退職後に同法人をつくり、自殺対策に取り組む。

清水さんは、出席した一部の首長に「支援する側のネットワークを強化しなければならない。関係機関や専門家が連携して、地域のセーフティーネットを大きくし、地域の力を結集するには、首長のリーダーシップが不可欠だ」と、先頭に立つよう呼びかけた。

自殺は都市部では若い世代、農村部は高齢者がそれぞれ多い傾向が見られるなど地域特性があり、行政側が把握することの重要性も指摘した。

講演で首長のリーダーシップの重要性を説く清水さん＝いずれも宇都宮市の県庁で



講演後の質疑では、矢板市の斎藤淳一郎市長が「小規模な自治体では取り組みが難しい面もある」などと問いかけた。これに対して清水さんは「(周辺の自治体と) 広域で、よりよいサービスを提供できることもある。やはり住民に一番身近な自治体は市町村。(連携の) 音頭は基礎自治体がとるべきだ」と応じ、首長のリーダーシップにあらためて期待した。

県は今年三月、基本対策となる「いのち支える県自殺対策計画」を策定した。県によると、各市町も計画を策定中で、「対策への理解を深め、計画策定に向けた助言になれば」(障害福祉課)とセミナー開催の狙いを説明した。

十日には、JR宇都宮駅前、県関係者らが啓発カードを通勤客らに配るなど街頭キャンペーンもした。

## センサーとロボで入居者見守り、東京聖新会が運用開始

特別養護老人ホーム「フローラ 田無」、まずは5床分を導入

日経 xTECH 2018年9月13日 編集部

東京聖新会 特別養護老人ホーム「フローラ 田無」は、ベッドサイドに設置したセンサーとロボットで入居者を見守るサービスを導入し、2018年9月10日に運用を始めた。「職員の負担軽減はもちろん、入居者のQOL(生活の質)向上に役立てたい」。同日に実施した内覧会において、東京聖新会 理事で同施設副施設用の尾林和子氏はこう語った。

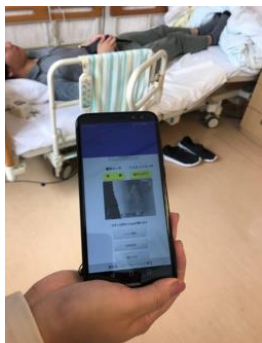
内覧会で披露した実際のベッドの様子。天井付近に見えるのが、シルエットセンサー(カメラ)



今回導入したのは、NTT データが2018年6月に提供を開始した介護施設向け見守りロボットサービス「エルミーゴ」。壁掛けのシルエットセンサー(カメラ)とベッドマットの下に配置するセンサー(眠りSCAN)、コミュニケーションロボット「Sota」で構成するサービスである。NTT データによれば、今回が最初の導入事例になるという。フローラ 田無では、5床に同サービスを導入した。

同サービスには、「見守りモード」と「コミュニケーションモード」の2つの状態を設定できる。見守りモードは、2つのセンサーが入居者の睡眠中の動きや起床の有無を検知し、

介護スタッフに通知が届く仕組み。Sota から入居者に対して、「どうしましたか？ スタッフの人が来るから待ってくださいね」などと声掛けを行うこともできる。



**2つのセンサーで得た情報はスマートフォンでリアルタイムに確認できる**

入居者の様子はスマートフォン上からシルエット映像で見ることができ、プライベートに配慮しながら離れたところからでも確認ができる。特に、少ない人数で行う夜間の業務において、スタッフの負担軽減が期待される。実際このサービスを使用したフローラ 田無の介護スタッフは「入居者の見回りを効率的に行えるようになる」と話す。

「エルミーゴ」のサービスのイメージ (図: NTT データのプレスリリースから)

コミュニケーションモードでは、ロボットからの声掛けや入居者とロボット間の自由な会話ができる。内覧会では、初め「ロボットとなんか話しても楽しくないよ」と話していた入居者の女性も、繰り返し応答するロボットに対して、続けて言葉を返す様子が見られた。「Sota の会話機能を使って入居者のコミュニケーションを促進



し、認知症の予防や症状緩和にも役立てたい」(尾林氏)。コミュニケーションロボット Sota と会話をする入居者

センサーやロボットに抵抗を示す人もいるため、サービスの利用は入居者と相談しながら決める考えだが、尾林氏は「(同サービスの実証実験を行った) 別の施設では、新しい取り組みをしていることで、入居者が増えたりスタッフの応募が増えたりといった効果が見られたと聞いている」と期待を寄せる。2025年には福祉・介護人材が約38万人不足すると言われる中、ITの力を借りながら介護人材

不足に対応していく取り組みは、今後も増えていきそうだ

**仙台の特区保育園でずさん会計、運営法人理事長を解職 知人会社に発注集中**



河北新報 2018年9月14日  
法人前理事長が解職された中山とびのこ保育園＝仙台市青葉区中山2丁目

仙台市が国家戦略特区を活用し、全国で初めて都市公園内に整備した中山とびのこ保育園(青葉区)を運営する同市の社会福祉法人「中山福祉会」がずさんな会計処理を理由に、前理事長の男性(71)を解職したことが13日、関係者への取材で分かった。前理事長は水増しした委託費や園と直接関係の

ない経費を、知人の元市議が経営する会社から法人側に請求させ、理事会の承認を得ずに

支払ったという。

法人側の経理文書によると、前理事長は2017年4月の開園以来、理事会の承認なしで計11件、計約400万円の業務を知人の会社に発注。このうち園庭の芝生管理委託費（42万円）は17年4～10月に知人の会社から月に2回、2人ずつ派遣されたことになっている。関係者によると、実際に業者が来たのは2回だけで、36万円程度が法人側に水増し請求された疑いがある。

園の敷地外の公園樹木伐採費など3件、計120万円も法人側が支払ったが、園の関連経費として扱うために必要な理事会の承認は得ていなかった。

前理事長は今年6月28日の法人理事会で、一部の理事から「発注先が知人の会社に集中するなど会計処理に疑義がある」などと指摘され、理事らの採決で解職された。その後も理事にとどまっている。解職要求した理事の一人は「発注先の選定の経緯も分からず、適正な会計処理とは思えない。法人を私物化した」と憤る。

河北新報社の取材に対し、前理事長は芝生管理委託費について「園の職員に任せながまく管理できず、知人の会社に委託した。請求書通りの作業員の派遣を受けた」と説明。公園樹木伐採費は「理事長は理事会の承認なしで300万円まで自由に支出できると法人の定款で定めており、問題ない」と話した。

〔中山とびのこ保育園〕仙台市青葉区中山2丁目の都市公園「とびのこ公園」内にあり、定員は90人。地元の町内会、商店街、まちづくり組織でつくる社会福祉法人が運営する。総事業費約2億8000万円のうち国が1億6600万円、仙台市が2000万円を補助。園の運営は市の委託費・補助金で賄われ、市は2017年度に計1億1100万円を拠出した。

## カトリック ドイツでも性的虐待3700人 独誌調査結果

毎日新聞 2018年9月14日

【ベルリン中西啓介、パリ賀有勇】キリスト教カトリック教会の聖職者による性的虐待疑惑に関し、独誌シュピーゲル（電子版）などは12日、独国内でも約3700人の被害者がいたとの調査結果を報じた。カトリック教会聖職者の性的虐待事件は世界各地で発覚しているが、実態解明に及び腰な教会の姿勢に批判が強まっている。事態の深刻化を受け、カトリックの頂点に立つフランシスコ・ローマ法王は来年2月、各国の司教代表を集めた会議を招集し、この問題を協議すると表明した。

調査は独司教会議の委託に基づき、民間機関や大学の犯罪研究所の専門家が実施。シュピーゲルなどによると、1946年から2014年にかけて、司祭や修道士ら1670人が被害者3677人に性的虐待を行っていた疑惑が判明した。被害者のほとんどは少年で、約半数が13歳以下だった。独DPA通信は「ドイツの聖職者の4.4%が容疑者になる」と指摘する。

ただ、調査では書類の原本の確認は認められず、教会事務局の中には書類を破棄した支部もあるとされる。教会側の「介入」を問題視した犯罪学者が調査担当から外されるなど、どこまで透明性が確保されたかは疑問だ。書類が改ざんされた形跡も指摘されており、「明らかになったのは実際に起きたことの一部」（DPA通信）とみられている。

独司教会議は9月25日に開かれる総会で、調査報告の結果を公表する予定だった。アッカーマン司教は12日、「無責任な事前報道は被害者にとってもショックな出来事だ」と報道を非難する一方、「被害の規模は我々にとって恥ずべきこと」とし、全容解明を進める考えを示した。

カトリック教会の虐待疑惑を巡っては8月、バチカン（ローマ法王庁）の元駐米大使が、フランシスコ法王が疑惑に関する報告を受けながら、対策を取らなかったと告発する書面を公表。貧者に寄り添う開かれた教会を目指し、人気を集める法王は厳しい立場に追い込まれている。

ふれあいコンサート 「ザ・ワイルドワンズ」ボーカル、鳥塚さん 養護学校で交流 児童ら180人と歌う 名古屋 / 愛知 毎日新聞 2018年9月13日

名古屋市立南養護学校分校(名古屋市南区中割町2)で12日、グループサウンズ「ザ・ワイルドワンズ」のリードボーカル、鳥塚しげきさん(71)が出演する「ふれあいコンサート」が開かれた。児童たちも一緒に歌うなどし、会場は一体となって盛り上がった。

コンサートは「障害児に生の音楽を届けよう」と、鳥塚さんが全国の特別支援学校などを訪れて行っている。1984年に始まり、これまでに150校以上を訪問した。

シルバー川柳入選20作品発表 「デイサービス『お迎えです』はやめてくれ」「朝起きて調子いいから医者に行く」 産経新聞 2018年9月14日

敬老の日を前に、全国有料老人ホーム協会(東京都中央区)は、シルバー川柳の入選作20作を発表した。「デイサービス『お迎えです』はやめてくれ」「朝起きて調子いいから医者に行く」などのユーモアあふれる作品がそろった。シルバー川柳は今年で18回目。7872句が寄せられ、応募者平均年齢は69.2歳。最年長は105歳の女性、最年少は5歳の女の子だった。題材で最も多かったのは、男性は「年齢」、女性は「長寿・高齢社会」。今回は入選作のひとつ、『インスタバエ』新種の蠅かと孫に問いのように、デジタルにまつわる言葉や流行語を詠んだ作品が目立ったという。肉体の衰えなど、加齢に伴う悩みを前向きに笑い飛ばすのがシルバー川柳の特徴だが、今年は「米寿」「卒寿」など長生きを表す言葉も多く使われていた。

《作品一覧》

- デイサービス「お迎えです」はやめてくれ 相野正(男性・大阪府・68歳・無職)
- ベンツから乗り換えたのは車椅子 井堀雅子(女性・奈良県・65歳・無職)
- 朝起きて調子いいから医者に行く 小坂安雄(男性・埼玉県・77歳・無職)
- 百年も生きりゃ貯金に先立たれ 川野誠(男性・大分県・46歳・病院職員)
- 仲いいねいいえ夫は杖代わり 佐々木美知子(女性・埼玉県・67歳・無職)
- 「インスタバエ」新種の蠅かと孫に問い 石井丈夫(男性・滋賀県・83歳・無職)
- うまかった何を食べたか忘れたが アリス(女性・三重県・52歳・福祉施設職員)★
- Siriだけは何度聞いても怒らない 小栗洋介(男性・東京都・32歳・社会福祉士)
- 靴下を立って履くのはE難度 近藤真里子(女性・東京都・56歳・パート)
- 「ご主人は?」「お盆に帰る」と詐欺に言い 川野竹子(女性・群馬県・73歳・主婦)
- 「もう止めた」検査ばかりで病気増え かつ子(女性・山形県・85歳・無職)★
- お揃いの茶碗にされる俺と猫 角森玲子(女性・島根県・50歳・自営業)
- 納得をするまで計る血圧計 ハルル(女性・東京都・69歳・主婦)★
- 家事ヘルパー来られる前に掃除する Verveine(女性・熊本県・82歳・無職)★
- 歩幅減り歩数が増えた万歩計 中川曙美(女性・新潟県・77歳・無職)
- 私だけ伴侶がいると妻嘆く 長谷川明美(女性・東京都・58歳・主婦)
- 古希を過ぎ鏡の中に母を見る 佐々木綾子(女性・大阪府・76歳・主婦)
- 無宗教今は全てが神頼み 見辺千春(男性・東京都・72歳・会社員)
- 君たちもどう生きるかと子に聞かれ 和沙楽(女性・長野県・52歳・会社員)★
- 懐メロが新し過ぎて歌えない 宮内宏高(男性・千葉県・65歳・無職)

※敬称略・順不同(★の作者名はペンネーム)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

